**「ラーマクリシュナの福音」勉強会　第９８回　（２０２３年１２月１２日）**

**・勉強範囲：「第四章　在家の人への助言」４８頁**

**～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～　　❀　　～**

（前回の補足）**📖４８頁上段　後ろから３行目**

**昼も夜も神を思っている人はいたるところに彼を見る。**

**（解説）**

この実例がシュリー・ラーマクリシュナです。シュリー・ラーマクリシュナはマザー・カーリーのヴィジョンを渇仰して猛烈な霊的実践を行いました。そしてさいごには、マザーがあらわれないのなら自らの肉体を殺すと言ってのどに刃を突き立てました（外からは見れば自殺のようですが自殺ではありません。自殺は１００％世俗的な原因で、シュリー・ラーマクリシュナの場合は霊的な原因だからです）。神を見ることができなければ人生は無駄であり、生きていても死んでいるのと変わらないからと。そのとき、マザー・カーリーがシュリー・ラーマクリシュナの前にあらわれたのです。

詳しい話は、シュリー・ラーマクリシュナの直弟子であるスワーミー・サラダーナンダジーが書いた『ラーマクリシュナの生涯』（日本ヴェーダーンタ協会出版）にあります。

マザー・カーリーは意識でつくられた光としてあらわれました。それは、５つの要素（土、水、火、風、空）つまり物質でつくられた光ではなく、ディッヴィヤ・ジョーティ（ディッヴィヤがdivine（神聖な）、ジョーティが光）でした。それを見て以降、シュリー・ラーマクリシュナはすべてのものの中にマザー・カーリーがあらわれているのを見ました。

私たちは「生きもの」と「物」とを分けて考え、物に意識があるとは思っていません。ですが物の中にもシュリー・ラーマクリシュナはマザー・カーリーがあらわれているのを見ました。マザー・カーリーは意識ですからすべてのものの中にあらわれているのです。シュリー・ラーマクリシュナは儀式礼拝で使う品々だけでなく床にもマザー・カーリーを見て床に礼拝をしました。これが「**昼も夜も神を思っている人はいたるところに彼を見る**」実例です。

シュリー・ラーマクリシュナは若い弟子や信者たちに「あなたの霊的な願いは何か」と尋ねることがありました（貧乏な信者が「お金が欲しい」と答えることもありました──その人はシュリー・ラーマクリシュナのおかげでのちに出版社を設立し本の出版によりお金を得ることができました。そのようなこともありましたが、シュリー・ラーマクリシュナが叶える願いのほとんどは霊的なものでした）。サラダーナンダジーの答えは、「私はすべてのものの中に、すべての人の中にブラフマンを見たい」というものでした。シュリー・ラーマクリシュナは「それは最後で最高の状態だが、あなたはその願いを満たすことができます」と言って祝福しました。

そのずっとあと、その頃はシュリー・ラーマクリシュナの肉体はなくなり、サラダーナンダジーはコルカタのマザーズ・ハウス（ウドボーダン）にいましたが、シュリー・ラーマクリシュナとのかつてのやり取りを知る信者がサラダーナンダジーに尋ねました、「マハーラージ、どうですか？　あなたはすべての中にブラフマンを見ていますか？」。サラダーナンダジーは「はい、見ています」と答えました。さらに信者が「あなたの背後に棚がありますが、それにもあなたはブラフマンを見ているのですか？」と尋ねると、サラダーナンダジーは「はい、見ています」と答えました。

いつも神について考えているとすべてに神を見ます。では、例えば母親は自分の小さな子供のことをいつも考えていますが、その場合と何が異なるのでしょうか？　答えは、母親はすべての人の中に自分の子供を見ていない、です。私たちはたとえ愛する者のことをずっと考えていても、他人の中に愛する者を見ることはありません。世俗的な愛はなぜこのように神への愛と異なるのでしょうか？　なぜなら神は遍在であらゆるところにおられるからです。また、神を考え続ければ心はきれいになり、心がきれいになると神の恩寵で神の本性を理解できます。その本性とはサット・チット・アーナンダ、神は遍在です、神は全知です、神は全能ですということです。ですが普通の人は遍在ではありません。

では次は、どうしたら神の遍在を体験することができるのでしょうか。聖典を勉強し私たちは神の遍在を頭で理解していますが、まだすべての中に神を見ることはできていません。その原因は何でしょうか。それは、心がきれいではないからです。鏡が汚れていたらうまく映らないように、心が汚れていると心に映らないのです。

具体的に言うと執着や欲望がまだあるからです。それらによって心が汚れているので真理を見ることができません。真理とは、すべての中に神がいるということで、それが本当は正しいことなのですが、メガネがくもっているので目の前のものが見えないのです。

では悟った人はどのように見るのでしょうか？

ベースがブラフマン（＝ブラフマン以外何もないORシュリー・ラーマクリシュナ以外何もないORシュリー・クリシュナ以外何もないetc.）で、それを様々な形に見ます。たとえばマスク（お面）には、怒っているマスク、泣いているマスクなど色々ありますが、すべてのものを、ブラフマンが名前、形、性質を象徴しているマスクのように見るのです。マスクを取ると、ブラフマン（シュリー・ラーマクリシュナの本性はブラフマンですからシュリー・ラーマクリシュナと言ってもよいです）があらわれます。実在は「（その人の）意識」で、非実在が「マスク」です。

もちろん悟らなければその体験はできません。皆さんは私が話した内容について集中して考えてみてください。するとイメージが湧いて理解できてゆくでしょう。また、人に神を重ね合わせるという実践方法（＝スーパーインポジション）によって、悟った人の体験の幾ばくかを経験することができます。

**📖４８頁上段　後ろから３行目**

**それはちょうど、人がしばらく一つの炎をじっと見つめていたあとで、四方八方に炎を見るのに似ている」**

**「しかしそれは、ほんとうの炎ではない」とMはふと思った。**

**人の心の奥底の思いを読み取ることのおできになるシュリー・ラーマクリシュナはおっしゃった、**

**（解説）**

シュリー・ラーマクリシュナの特徴の１つが、すべての人の心の考えを読み取ることができる、ということです。それをサンスクリット語で「アンタルヤーミー」と言います。

（板書）Antaryāmī

アンタは「心」です。それを、理解する人、いや人ではなく理解する存在です。なぜそのようなことができるのでしょうか？　神はすべての人の心の中に住んでいるからです。

これは超能力の１つ、読心術（thought-reading）とは全く違います。世俗的な人の中に、他人の心が読める人もいますが、スワーミージー（スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）はその方法を教えたことがありました。やり方を紹介しますけれども皆さんは実践しないでください、また、すぐに出来るような簡単なことではありませんが。まず、心の中から自分の考えを完全に取り除いて心をからっぽにしてください。その状態で、読み取りたい人の心に集中（フォーカス）してください。するとその人の考えを知ることが出来ます。

スワーミー・ブラフマーナンダジーは若いとき、シュリー・ラーマクリシュナに尋ねたことがありました、「あなたはどんな人でも見ただけでその人の心中がわかります。なぜそれが可能なのですか？　どうしたらできるようになるのですか？」。シュリー・ラーマクリシュナはガラスケースの中のものを見るように、人の心の中の考えやサムスカーラなどすべてを理解することができたのです。そのことについて興味があったブラフマーナンダジーはそのような質問をして、シュリー・ラーマクリシュナの恩寵によって読心術の力を得ました。ですが人の心の中にはたくさんの汚いものがあることを理解して、その力を持つのを「怖い」と思うようになりました。その力により人の心の汚いものをたくさん見るようになると、その結果自分が汚れる可能性があるからです。そしてシュリー・ラーマクリシュナに頼みました、「もういりません、元に戻してください」と（笑い）。

読心術でお金を稼ぐ人もいますが、その力が危険をもたらすこともあるのです。霊的な人は絶対にそうしません。ブラフマーナンダジーもそうでした、もういらないと思いました。そのように、その力は悟る前には問題ですが、しかし悟った人に問題は起こりません。悟った人にとって汚いものは影のようであり、汚いものを見てもその影響は及ばないからです。シュリー・ラーマクリシュナにもホーリー・マザーにもその力がありました。むしろ悟った人が人に教える師となる場合、その力が必要となります。教えを乞いに来る人の心中、潜在意識、サムスカーラ、前生、願いなど、それらすべてのことを理解できなければその人への大事な助言、必要な助言ができないからです。

『ラーマクリシュナの福音』には、シュリー・ラーマクリシュナが質問を聞く前に、その質問を理解して話し出すシーンが幾度となくあります。心に質問や疑問を持つ来客が10人ほどいても、シュリー・ラーマクリシュナはそれらを理解して話すことができ、彼らは答えを得、疑問を晴らして帰ることができました。

また直弟子にもその力がありました。スワーミー・トゥリヤーナンダジーがベナレスで療養していたとき、彼の世話係のお坊さんはトゥリヤーナンダジーの隣の部屋で、「このセーヴァーをしばらくやめてヒマラヤに行って瞑想したほうがよいのではないか？」と考えていました。すると、とつぜん隣の部屋から「行きたいなら行きたまえ、私はあなたの世話はいらない」とトゥリヤーナンダジーの声がしました。

シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー、トゥリヤーナンダジーなど直弟子たちの力はアンタルヤーミーです。悟った人は神の性質を持っているのです。アンタルヤーミーというサンスクリット語の言葉ひとつで、それは読心術とは違うものだということを察知することができます。

**📖４８頁下段　３行目**

**「人は霊そのもの、意識そのものである神を思ったために意識を失う、などということはない。シヴァナートがあるとき、あまり神のことを思いすぎると頭が混乱すると言った。そこで私は彼に言ったものだ、『人がどうして、意識を思いすぎて無意識になることなどがあり得よう』と」**

**（解説）**

「人は霊そのもの、意識そのものである神を思ったために意識を失う、などということはない」そして「人がどうして、意識を思いすぎて無意識になることなどがあり得よう」と、同じことを二度言っています。

「意識を失う」「無意識になる」とは英語でcrazy person、mad man、日本語では「頭がおかしくなる」と表現したらよいでしょうか？　具体的な特徴としては、話す内容に意味がなくて支離滅裂・非論理的だったり、今笑ったかと思うと泣いたりして態度が普通ではなかったり、挨拶が普通にできなかったり、右手で食べるのがマナーなのに左手も使って食事をしたり、ということです。

頭がおかしくなる原因は、一般的には愛する人が亡くなるなどの大きなショックを受けて大変なフラストレーションを抱え、落ち込んだり失望したりすることによります。または遺伝の場合もあります。

また、間違った霊的実践が原因の場合もあります。まったく瞑想の実践をしていなかった人が、すぐに悟りたいと思って突然4時間5時間の瞑想をすると、その結果で頭がおかしくなる可能性があります。またヨーガの本を読み、プラーナーヤーマを実践すればすぐにクンダリニーが上昇すると考え、先生に就かずに独自に危険なプラーナーヤーマを行うと頭がおかしくなる可能性があります。もちろん息を吸って吐くだけのリズミック・ブリージングやナーリィー・シュッディ（片鼻ずつ行う呼吸法）は問題ないですが、クンバカ、特に長時間［１］息を止めるのは注意しなければなりません。熟達しているヨーギーは、クンバカをしてクンダリニーを叩いて眠れる霊的力を目覚めさせるのですが、実践を重ねていない普通の人は肺のキャパシティがなく、病気になったり頭がおかしくなったりするのです。

［１］『パタンジャリ・ヨーガの実践　～そのヒントと例～』（日本ヴェーダーンタ協会出版）第５章　プラーナーヤーマを参照。

また、必ず先生について勉強しなければなりません。独自の実践は頭をおかしくする危険が大きいからです。また生活のしかたにも注意を払わなければなりません。特別な食事法、特別なライフ・スタイル、特に禁欲を実践しなければ危ないのです。霊性の道を安全に進むには、ハイ・ジャンプ、ロング・ジャンプではなくゆっくり進むことが肝心です。

しかし、万一頭がおかしくなったとしても、その責任は神ではなく当人にあります。実践も目的も霊的でしたが方法が間違っていたのですから。正しい方法で実践しなかったのはその人であり、それは自分が気を付けていなかったということですから。すなわち「神を思い過ぎて頭がおかしくなる」というのは正しいことではないのです。ブラフマーナンダジーをはじめとしてシュリー・ラーマクリシュナの直弟子たちも皆、「気をつけてください」と言いました。突然長時間の瞑想をするのではなく、ゆっくりゆっくりゆっくりゆっくり瞑想の時間を長くしてください。そうしないとreaction反動の可能性があります。

話を頭がおかしい人の特徴に戻しますが、外から見ると頭がおかしいように見えても本当は悟った人の場合があります。たとえばシュリー・ラーマクリシュナですが、自身がその状態を、「ときどき子供のよう」「ときどき物質のように動かない」「ときどき悪魔のよう」等と説明しています。

たとえば人々の前で裸でいたら、人々はその人のことを「頭がおかしい」と思うでしょう？　シュリー・ラーマクリシュナはときどきその状態でした。しかし、頭がおかしい人とシュリー・ラーマクリシュナの様子は外から見ると同じであっても全く異なります。シュリー・ラーマクリシュナの話は論理的で意味を成してしますし、とても深い話をします。神を思い続けても頭がおかしくなることはないのです。しかしもう一度言いますが、神を思う「方法」については気をつけなければならない、気をつけなければ頭がおかしくなる可能性がある、ということなのです。気を付けて実践すれば、人は本当に悟ります。

シヴァナート・シャーストリーは、「シュリー・ラーマクリシュナは神のことをあまりにも思い過ぎたために頭がおかしくなった。サマーディも１つの病気である」と言いましたが、いま、私たちはそのような考えは間違いであると理解していますが、昔も今も、サマーディの状態に入った人を目撃することはそんなになかったでしょう？　そのようなチャンスはありませんでした。シュリー・ラーマクリシュナはしょっちゅうサマーディに入る特別な方でしたから、誤解される可能性は大いにあったのです。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが最初にシュリー・ラーマクリシュナについて聞いたのは、通っていた大学の教授からでした。その人はイギリス人で、名前をヘスティと言いました。へスティはワーズワースの詩を引用し説明していました。その詩の内容は、「私は自然について考え、ときどきエクスタシーの状態（それがサマーディです）になり、自分の意識を失います」というものでした。その時へスティが「私の知り合いに一人だけ、サマーディの状態に入る人がいます。ラーマクリシュナという人です」と言ったのです。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはイギリス人の先生からシュリー・ラーマクリシュナのことを初めて聞きました、知り合いの中に一人だけサマーディの状態に入る人がいる、私はその状態を見たことがある、と。

私の言うことは、普通はサマーディの状態を見たことがないので、サマーディに入っている人をみたら、病気、ヒステリア（てんかん）、意識を無くす、などと解釈する可能性はある、ということです。ですが、病気で意識を無くしたのなら、意識を取り戻すために薬や施術が必要でしょう？　しかしシュリー・ラーマクリシュナは自分で自然に戻ってきていました。薬を飲まなければ戻ってこられないということはなく、「私は水を飲む」「私はタバコを吸う」などの小さな願いを作ることで、神のレベルから通常のレベルに戻っていました。またサマーディから戻ったあとは、神の知識をたくさん語り、それらはすべて正しいと後に証明されました。一例として、ナレンドラナート（のちのスワーミー・ヴィヴェーカーナンダ）がどれほど偉大な方になるかも語られましたがそれは正しいことでした。話の内容をすぐに確認できたものもあれば後に確認できたものもありますが、すべてが正しく、間違いのものは1つもありませんでした。これはヒステリアの人には起こり得ないでしょう？

酒に酔っぱらった人が千鳥足になることがありますが、シュリー・ラーマクリシュナもときどきふらついて歩くことがあり、まるで酔っぱらいのようでした。しかしそれは酒を飲んだせいではなく、マザー・カーリーを礼拝したあと神聖な水を少し飲んでそのような状態になりました。原因はアルコールではなく、神の水、神の愛のリカー（酒）だったのです。シヴァナート・シャーストリーはそれを理解していなかったから、神のことを考え過ぎるとヒステリアのような病気になると考えたのです。

それだったらイエスもそうです。イエスも神についてたくさん考えました。イエスも頭がおかしいです、お釈迦様も頭がおかしいです、ムハンマドもそうです、聖者の頭はみんなおかしいではありませんか？　いいえそうではなく反対です。その種類の人の頭が本当は正しい。それと比べると、それ以外の人の頭のほうがおかしく、聖者の頭だけが正しいです。次を読んでください。

**📖４８頁下段　８行目**

**M「はい、分かります。それは非実在の対象を思うのとは違います。人がもし、つねにその本性が不滅の知恵である神に心を集中するなら、どうして彼が知恵を失うことなどがありえましょうか」**

**師（喜んで）「お前がそのことを理解できるのは神のお慈悲によるものだ。彼のお慈悲がなければ心の疑いは消えない。自己の自覚なしには疑いは消えないものだ。**

ポイントは２つ。１つは神の恩寵ですべての疑いはなくなる。もう１つは悟らない限り疑いはなくならない。これは普通に考えると別のことを言っているようではありませんか？　神の恩寵で疑いがなくなれば、悟るために瞑想などの実践をする必要はないと受け取れます。あるいは、自分で努力して悟れば神の恩寵はいらないとも受け取れます。次のクラスで説明します。

**（賛歌奉献）**（映像データの１：３７：２３頃）

ラゴレエ　ジャヨ　ジャヨ　ラーマクリシュナ　ナーム

**（Q＆A）**

**Q）**チャクラのアイディアは、ヴェーダーンタの実践のアイディアの中にもありますか？　それともタントラ？

**A）**ヴェーダーンタの中にチャクラのことは全くありません。チャクラはタントラだけでなく、『ハタ・ヨーガ・プラディーピカー』などヨーガの伝統の中にあります。

**Q）**心が神聖できれいになっていけば、もう自然とチャクラがそれぞれきれいになっていくと考えてもいいですか？

**A）**そうです。別の実践の必要はありません。シュリー・ラーマクリシュナは何度も、バクティ・ヨーガの実践によってクンダリニーは上昇する、そのためにプラーナーヤーマを実践する必要はないと言っています。バクティ・ヨーガ、ギャーナ・ヨーガなどすべてのヨーガの結果は同じで、クンダリニーは上昇します。クンダリニーについての詳しい解説は、ヨーガやタントラだけでなく『ラーマクリシュナの福音』の中にもあります。

私のところに来る人たちの中に「クンダリニーが上昇した」と言う人もいますが、本当は、簡単なものでも簡単なことでもありません。それに、たとえばプラーナーヤーマをしないとクンダリニーは上昇しないということではないのです。バクティ・ヨーガでは、そのような種類の実践とは異なる実践をしますが、その実践によってもクンダリニーは目覚め上昇します。もちろんプラーナーヤーマのような実践を好むのなら行っても構いません。ですが多くの人にとってはしないほうがよい、というのがシュリー・ラーマクリシュナの助言です。その実践を行いたいなら安全に進むために、食事、生活スタイル、心の浄化、禁欲のほか、静かな環境と特別な場所も必要です。たとえば東京の喧騒の中にいては無理なのです。一方でバクティ・ヨーガの実践に、なにも危険的なことはありません。　　　　　　以上